北海道小樽潮陵高等学校 全日制課程

第 72 回 卒業証書授与式 式辞

例年であれば、PTA 会長様や同窓会長様などのご来賓と保護者の皆様方のご臨席を賜り、盛大に華やかに行われる卒業証書授与式です。しかし今年は、新型コロナウイルス感染症拡大が懸念される中、安全を最優先に行わざるを得ない状況となりました。必要最小限の参加人数で万全の対応を求められ、日程も一日延期されました。残念なことです。しかし、優先されるのは将来ある卒業生がウィルスに感染するなどの事態を招かないことです。卒業生諸君及び保護者の皆様の期待に反する卒業証書授与式かもしれませんが、理解をお願いしたいと思います。

まずは、卒業証書を受領した 229 名の第 114 期卒業生諸君、卒業おめでとう。小樽潮陵高での三年間、勉学に励むことはもちろん、部活動で成果を上げた人、行事で頑張った人など、様々な体験をしたことと思います。充実して楽しい思い出の三年間だったことは、PTA だよりの部活動の記録、進学実績の記録、優秀な出席状況と成績、そして何よりも潮陵祭や球技大会・体育大会での熱中ぶりで良く分かります。この三年間は今のみんなの宝物だと思います。かけがいのない宝物として大切にしてほしいけれど、みんなはこれからももっともっと多くの宝物を作り続けるのだらうと期待もします。

自信

さて、今日の卒業証書授与式を境に様々な進路にそれぞれが進んでいきます。それぞれの進路で求められる能力を獲得し向上させ、活躍することが期待されます。時に挫折を味わうこともあろうかと思いますが、必要なのは自分を信じること、自信です。自信は努力と成果によってしか生まれないこと、多くの人は知っていると思います。

技術的なことで自信をつけるために、重要なのは効率です。仕事に必要な知識や方法など、できるだけ短い時間で吸収しできるだけ長い時間保持できるように、習得の方法を不断に見直すなどの工夫が必要です。脳科学や認知心理学の知見が参考になるでしょう。

精神的なことで自信をつけるために、重要なのは困難を乗り越える経験です。(独法) 国立青少年教育振興機構が行った『子供の頃の体験がはぐくむ力とその成果に関する調査研究』によると、「親や先生、近所の人から「褒められた経験」が多かった人は、社会を生き抜く資質・能力が高い。そのうち、「厳しく叱られた経験」が多かった人はより社会を生き抜く資質・能力が高い傾向がみられる。」ということです。困難を乗り越えると自信になるのです。また、褒められるばかりでなく叱られても困難を乗り越えると、より強い自信になるようです。しかし、ある野球選手は、野球少年達にこう語りました。「教える側の厳しい指導が問題視されることが多く、厳しく教えるのが難しくなっている。最終的には自分で自分を教育しないといけない時代になった。自分で自分を鍛えるのが重要なのだ。」本当に人を成長させたいと思うなら、指導する側が厳しさを取り戻すべきで、指導される側に厳しさを求めるのはお門違いだと思います。しかし、現実にはその野球選手の言うとおりの世の中になっているようです。ですから、「若い頃の苦勞は買ってでもしろ」を実践することが大切です。人に困難を強いられるのは不当でしょうが、困難な課題を自らに課して叱られても諦めなければ、より強い自信が得られます。

教養と言語能力

ところで、元慶應義塾長の小泉信三は著書『読書論』でこう述べています。「直ぐ役に立つ人間は直ぐ役に立たなくなるとは至言である。同様の意味に於て、直ぐ役に立つ本は直ぐ役に立たなくなる本であるといへる。...併しこの、直ぐには役に立たない本によって、今日まで人間の精神は養はれ、人類の文化は進められて来たのである。」

「直ぐに役に立つ」というのは、経済的効率が良いことと思われませんが、「直ぐに役に立たない」知識には、教養と言われるものが含まれます。昨今、経済効率の重視、教養の軽視が見られます。例えば、シェークスピアを英語で読んでも英語が話せないのは問題だ、と言われることがあります。しかし、その必要があれば、シェークスピアを読める人は英語を話す訓練をして英語を話せるようになります。教養があることと経済的効率は相反するものではありません。順番の問題です、両方のバランスを取ることが難しいだけです。そもそも、かつての日本では、漢籍の素養や日本の古典を武士などは誰もが習いました。それらは武士としての損得とは関係なく、武士としての求められるものだったのです。また、欧米では、死語となったラテン語や哲学、音楽が現在でもエリートに求められているようです。小泉信三が言うことが正しいとしたら、教養がないことは人間の精神や文化にとって良くないのです。

教養を身に付ける点で忘れてならないのは、言語能力です。

国際バカロレアは、認定された課程を修了すると、どの国の大学でも入学できる国際的に通用する大学入学資格（国際バカロレア資格）が与えられるというシステムです。その指導書である『IBプログラムにおける「言語」と「学習」』（国際バカロレア機構, 2014）に、アメリカの言語学者ウォーフ（Benjamin Lee Whorf）の言葉が紹介されています（p.3）。

すべての言語は、文化的につくられた形態やカテゴリーを包含する広大なパターンの体系であり、その体系はそれぞれに異なっている。人間が言語を通して行うのは意思疎通だけではない。人間が物事の本質を分析する時、ある現象や関係性に気づく時やそれを無視する時、推論を導く時、自身の意識を形づくる時、そこにはいつも言語が存在する。

この複雑な内容を述べる語彙も文法も複雑な英文を機会があれば見てほしいと思いますが、言語は、人間が作り上げてきた文化を代表するものの一つです。「英語はコミュニケーションのためのツールだから」ということはある意味では正しいのですが、言語の実用的な側面が強調されている嫌いがあります。どの言語でも、簡単なことを言うときには簡単な言い方になりますが、複雑なことを言うときには複雑な言い方になります。つまり、言語は精神や思考の表れです。SNSの影響か、短く省略されたことばを使うのに慣れてる人が多いように思われますが、まず日本語での言語能力の向上に努めて欲しいと思います。

未来に向かって

「新しい酒は新しい革袋に盛れ」と言います。新しい考えや内容を表現するには、それに応じた器、形式が必要だという意味です。AI技術の進歩などにより、新しい時代には新しい資質・能力が必要だと言われています。思考力や主体性、協働性などは昔から必要だと言われてきたものですので、本当にどのような資質・能力が新しく必要なのかは実は分かっていません。乱暴なようですが、新しい時代にならなければ分からないのかもしれないかもしれません。

皆さんが生きる新しい時代は、情報技術の進展の他、人口が減少する時代です。小樽市の人口も減少しており、小樽市住民基本台帳人口によれば、平成21年1月136,645人から平成30年12月116,516人へと、10年間で約2万人減少しました。人口減少は日本だけの問題ではありません。女性1人が一生で出産する子供の平均数（合計特殊出生率）は、2018年日本は1.42人でしたが、台湾は1.1人程度、韓国は2019年で1.0人以下です。原因は経済的要因や生活様式の変化など、様々に言われています。そのほかにも、地球温暖化などの環境問題、国民国家の融解とグローバリズムの進展など、大きな変化が予想されます。

このような大きな変化の時代にどう適応するのかは、分からないのが本当のところですが、皆さんは既に私たちが持っていない資質・能力を備えています。例えば、SNSで培った表現力は、皆さんの上の世代は持っていない種類のもので、皆さんは私たちが真似できない能力を持っています。私は、そこに新しい時代に必要な資質・能力の種を見ます。

寒昴たれも誰かのただひとり

皆さんがまだ小学生の頃、東日本大震災が起きました。あれから9年経ちます。この句を詠んだ照井葵さんは、俳句では通常生の表現を用いる詠み方はしないとしつつ、それでも詠まざるを得ない思いがあったと記しています。震災以降、日本の変化は期待ほどではないかもしれませんが、変化はしています。どの時代にも変化はありました。変化におびえず、変化に適応し、生きていくのです。

最後に、高等学校卒業を迎えるこの日まで保護者の皆様が感じられてきた様々な喜びと苦しみを思うにつけ、皆様のご臨席をお断りする事態になったのが誠に残念です。しかし、冒頭にも述べましたように、大切なのは子供達の将来です。今後も私たちは、栄えある小樽潮陵高卒業生に対しできる限りの支援をしたいと思っております。これまで我々教職員と様々な連携・協力をして頂きました。感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

本日の卒業を心から言祝ぎ、229名の第114期卒業生が自信を持って未来に向かうことを確信し、卒業証書授与式の式辞と致します。

令和二年三月二日

北海道小樽潮陵高等学校長 片岡 晃